

校内研究だより#5

働くことに適応PT

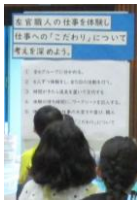
第4学年 総合的な学習の時間 「仕事の『こだわり』探検隊」

《授業について》

10月22日水曜日、今年度5回目となる校内研究授業を行いました。今回の校内研究は、第4学年の総合的な学習の時間として、「左官屋の仕事を体験することを通して、職人Tさんの仕事への「こだわり」について考える。」ことをねらいとして授業を行いました。今回は、その様子をお伝えいたします。

①【導入】

学習計画を基に、本時までは何をしてきたか、本時では何をするのかを確認しました。そうすることによって、児童が本時の見通しをもつことができたり、めあてをしっかりともって取り組むことができるようになりました。また、既に顔合わせをしている左官職人さんと改めて挨拶をすることで、児童は本時の活動への意欲を高めている様子でした。



③【展開Ⅱ】

左官屋の仕事の体験や左官職人の話を基に、「働くこと」や「こだわり」について考えました。児童は、「自分自身のコツやこだわりをもって、誰にでもできるようなことをするのではないのが職人さんのすごいところなんだと思いました。」というように自分の気づきを発表しました。



②【展開Ⅰ】

6グループに分かれ、「板に載せたモルタルをコテに載せる体験」と「モルタルを板に塗る体験」の2つを行いました。まずは、左官職人さんが手本を見せたところ、児童から「簡単そう。」や「はやくやってみよう。」という声が上がりました。しかし、実際にやってみると、四苦八苦していました。そこで、コツはあるのかを聞いたり、手を添えてもらったりすることで、徐々にできるようになっていきました。2つの活動の中で、モルタルを板に塗る体験は特に難しかったようで、板に



モルタルを
板に塗る体験

塗ってもボロボロと床に落としてしまっていました。しかし、凹凸や厚みの違いはあれど、ある程度塗ることができました。その後、左官職人さんが説明を交えながら塗り直す様子を見せてもらいました。改めて、素早く簡単そうに作業する様子を見た児童は、自身の体験を想起し、苦勞して技術を身に付けた職人さんのすごさを実感しました。コツとしては、角度をつけて塗ると均一になるそうです。しかし、その角度の大きさは数値として決まっているのではなく、練習して自分がやりやすい角度を見付ける必要があるそうです。このような左官屋の仕事体験を通して、「働くこと」や「こだわり」について改めて考えました。



板に載せたモルタルを
コテに載せる体験

指導・講評

◎地域の方がゲストティーチャーで来てくださるということは、学校と地域がつながっている証拠であり、とてもよい。今後も継続的に授業の際にお呼びして関係を保っていくとよい。

◎総合的な学習の時間に関する課題として、「学校差が大きい」「全体計画の作成が難しい」という点が挙げられる。その点で、本校は全体計画がしっかりしており、共通理解されている点が良い。

△本時の活動に対する個人のめあてを発表したり、ペアやグループで共有する時間があるとよかった。

△本時で児童が捉えることができるようにしたい事柄が「コツ」なのか「こだわり」なのか分かりにくかった。体験を通して子供たちに何を気付かせたかったのかを焦点化して伝えられるとよかった。

・ 特別活動や総合的な学習の時間における指導は、6年間を見据えて足並みを揃えて指導をすることが求められており、簡単にできることではない。この学校では、具体的な取組ができているため、指導する教員も学ぶ児童も円滑に取り組むことができている。

学びの足跡

第4学年 総合的な学習の時間
「仕事の『こだわり』探検隊」

働くことに適応PT

導入

これまでの学習を振り返り、
本時では、左官屋の仕事を体験し、
仕事への「こだわり」について
考えを深めることに
対する見通しをもつ。



モルタル



展開Ⅰ①

板に載せたモルタルを
コテに載せる体験

展開Ⅰ②

モルタルを板に塗る体験



展開Ⅱ

左官屋の仕事の体験を通して、
「働くこと」や「こだわり」
について考える。

職人さんの仕事は難しい技
術が必要で、何年も努力し
ないといけないことが、体験
したから分かりました。相手
の立場にたった「こだわり」
をもって仕事をするので、
思いのこもった家を造ること
ができるのだと思いました。

